

【高等学校用】

令和3年度学校評価計画

学校名	佐賀県立武雄高等学校		
1 前年度 評価結果の概要	・新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から行事の縮小・中止が相次ぎ、各項目とも当初の計画から何度も変更を重ねながら実施していった。その中で必要のない行事や効率的な方法が見えてきた部分もあり、それを来年度生かして業務改善や働き方改革につなげていきたい。 ・今年度の進捗状況の結果から考えると「学力の向上」については、しっかりと養成されていると考えられる。しかし、提言にもあるように数値目標が以前のままであり、現実とあっていない部分があるので来年度見直しが必要である。 ・毎年、授業や講演などで情報モラルに関する教育を行ってきたが、今年度もSNSを介した問題が起こった。来年度は、更に徹底して指導をしていき、いじめや不幸な事件が起こらないようにしていきたい。		
2 学校教育目標	高い志と未来を切り拓く力を持ち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する。		
3 本年度の重点目標	①高い志を抱いた生徒一人ひとりの能力・個性を伸ばし、継続性を持った中高一貫教育の推進 ②基礎から応用までの教科指導の充実や、生徒が深く考える活動を通しての進路目標の実現 ③アクティブ・ラーニングやICT利活用を手段とし、主体的な学習活動ができる授業の推進 ④地域や国際社会の発展に寄与できる人材の育成 ⑤様々な教育活動や生徒支援による、心身の健康の増進と豊かな心や想像力の育成 ⑥保護者や地域との連携を深め、広く共感と信頼を得られる学校づくりの推進 ⑦教職員の指導力向上、働き方改革を踏まえた機能的・効率的な学校運営による組織力の強化		
4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
	重点取組		具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○教職員の指導力向上	○大学入試研究会を各教科で年2回実施する。 ○各種研修会に10名以上の教職員が参加し、基礎的レベルから応用・発展レベルまで対応できる指導力を身につける。	・大学入試問題研究等の実施によって、より実践的な知識と技能を身につけ、日常の授業への応用を図ることにより、授業内容の改善に取り組む。 ・校外の入試研究会や教科の講習会等に積極的に参加し、入試問題や入試動向等の研究を行う。
	○生徒の実力養成	○全国模試総合偏差値60以上を各学年75名以上にする。 ○各学年・教科の全国模試平均偏差値の目標を58以上とする。	・学習時間調査、進路希望調査の実施や、「学習と生活の記録」を活用し、生徒の日々の生活状況を把握し、指導に活かす。 ・職員研修の充実による教員の授業力向上を図る。 ・模擬試験を受け、教科担当者会議を実施し、模擬試験の結果の検証し、授業方法を見直し、新たな目標を設定をする。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の実践	○ホームルーム活動や校外活動を通して、他者への思いやりの心を育てる。校外活動に参加した生徒、全生徒数の50%以上 ○人権教育の全体計画に基づいて授業【人権・情報モラル】を行った教員80%以上	・ホームルーム活動の時間に具体的なテーマを設定して考えさせる。 ・校内外の体験活動の意義を明確にし、関連する情報を提供して、生徒の参加意欲を引き出す。 ・武雄祭でのクラス企画などグループ活動を通して、助け合いの心を育てる。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの早期発見に努めるとともに、認知事業に対しては早期解決に努める。 ○いじめ防止(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)や教育相談の体制について組織的対応ができていないと回答した教員80%以上	・学校行事や部活動において、生徒自身が集団との一体感を持てる取り組みを工夫することはいじめの起こらない雰囲気をつくる。 ・「いじめはどの学級でも、どの生徒にも起こり得る」という視点を常にもち、日々の観察、学校生活アンケートの活用、面談等より、いじめの早期発見に心掛け、いじめが認知された時は組織として迅速に対応する。 ・心の教育を通して思いやりの心を育成する。
	○教育相談体制の充実	○教育相談室の積極活用で、年間30日以上欠席者数を10名未満にする。 ○生徒が授業に行けるようになることを目標とした声掛けを工夫し、欠課数を極力減らす。	・SCの活用や教育相談連絡会、特別支援教育委員会を通して職員間の共通理解を図り、生徒が円滑に学校生活を送ることができる方策を図る。保護者に対してもSCの利用を進める。 ・教育相談室を開放し、利用しやすい雰囲気を作る。 ・学びたいが教室に入れない生徒の把握を行う。
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣と健康の自己管理能力の育成	○校内環境美化と学びの場所(教室等)の整備に努める。 ○健康診断を有効活用し、健康意識の向上を図る。特に歯科・眼科の受診率50%を目指す。 ○内科的要因の保健室利用数を800件以内に。	・学校全体でゴミゼロ運動(ゴミ箱の不設置・ゴミの持ち帰り)に取り組む。 ・健康診断後の治療勧告書や、保健だより、食育コーナー等の情報を発信する。 ・部活動に加入させ、心身の健全な発達を促す。 ・前日に休みや早退の生徒が登校してきたら、様子を聞く。
	●安全に関する資質・能力の育成	○生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。 ○規則の遵守、防犯安全に関する講演会を実施し意識を高める。 ○加害としての交通事故件数0に努める。	・日々のホームルームや集会等を利用して、道徳やマナー・交通安全・情報モラル・人権意識等について講演等を実施する。 ・定期的に服装頭髪指導を実施し、武雄高校生としてふさわしい身なりを意識づける。 ・警察や県生徒指導連盟からの情報提供を参考にプリント・ポスター等で防犯意識を高める。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○職員が年間で平均10日以上休む年休を取得する。 ○振休の完全な実施、各種休暇の取得の奨励を行う。	・休養日の確実な設定、交代での指導等で部活動による時間外勤務の削減を図る。 ・メールやメッセージ機能を活用し、会議等の削減と時間短縮を行う。 ・閉庁日の設定、留守番電話機能の活用で職員の出勤や業務負担を削減する。 ・出勤管理システムを有効に活用し、時間外勤務の多い職員に適宜、声掛けを行う。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
	重点取組		具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○魅力と活力ある高校づくり	◎地域との協働活動・校外体験活動等の推進	○武雄市と協力して探究活動を充実させ、地域課題の理解を図る。 ○地域の魅力を理解し、地域の将来を考える力を育む。 ○武雄市まちづくり参画事業に参加した生徒の満足度80%以上	・武雄市と連携を深め、地域の現状を探る。また、地域の課題解決に向け魅力あるプランを提案できるよう総合的な探究の時間等を利用する。 ・武雄市のコーディネーターと連携し、まちづくり事業を進展させ、地域との協働活動に取り組み地域への関心を高める。
	○広報活動の充実と志願者の増加	○体験入学の参加者を定員の180%を目指す。また、第2回進路希望調査で志願倍率を1.1倍を目標とする。	・「武雄高校だより」を年間12回以上発行し、生徒の活躍を紹介する。 ・ホームページに生徒の活動を掲載し、随時更新する。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育